

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類		授業担当	
子どもの健康と安全		時間割内読替授業		小松田 よし子	
授業の回数		(単位数) ※		必修・選択	
15		2 単位		必修	
		配当学年		実務経験	
		CW 3 1 / CF 3 1		7 年	

[授業の目的・ねらい]

子どもの保健で学んだ基礎知識をもとに、保育者として実際に対応できるようになる。
 子どもの病気や応急手当等、必要な援助の方法や事故防止、安全管理について、実践できるようになる。

[授業全体の内容の概要]

各疾患や感染症についての予防と集団感染の防止を理解し、保育における養護技術や健康安全管理等について演習を中心に行い、模擬評価方法を講義と視聴覚教材によってを行う。

[授業修了時の到達課題（到達目標）]

保育における保健的対応を知り、援助方法を習得する。子どもの体調不良時の健康観察の仕方、バイタルサインの測定方法を知り、適切な対応を理解する。
 救急時の対応、応急処置、心肺蘇生法に関する知識・技術を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

・講義、視聴覚教材、演習授業のレポート、單元ごとの小テスト、

コマ数	内 容
1	子どもの保健と安全を学ぶ目的 第1章 子どもの発育を知ろう A. 胎児の発育 B. 胎児の発育に影響する因子
2	第2章 子どもの発達を知ろう A. 運動機能の発達とその評価について B. 精神機能の発達の測定とその評価について 第3章：「子どもの健康」で
3	第4章 日常における養護の方法 A. 子どもの抱き方 B. おんぶの仕方 C. : 乳児保育で D. 口腔の衛生 E. 衣服の着せ方 F. 排泄のさせ方 G. 沐浴・入浴のさせ方
4	H. 寝かせ方 I. 外出時に注意すること J. おもちゃと固定遊具 K. 自転車の乗せ方 L. 子どもへの声掛けの仕方
5	第5章 子どもの保育環境づくり A. 施設環境 B. 日常の健康管理 C. 健康診査
6	第6章 よくかかる病気について知ろう A. 病気についての基礎知識
7	B. 体調不良時の症状別対応 C. よくかかる感染症 1 起因病原体別感染症
8	2 臓器別感染症 D. 感染症の予防 E. 薬の投与の仕方 F. 病院受診時の対応
9	第7章 よく起こる事故について知ろう A. 子どもの死因統計 B. 子どもの事故の特徴 C. 年齢別のけがや事故の種類と発声場所 D. 事故防止 E. 事故後の精神的支援 F. 安全への配慮 G. 安全管理 H. 安全教育
10	第8章 いざというときの応急処置について知ろう A. 子どもの応急処置における留意点
11	B. 急病時の応急処置 C. 傷害時の応急処置
12	第9章 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について知ろう
13	第10章 子どもの生活習慣について考えてみよう
14	第11章 世界の子どもの保健をながめてみよう
15	まとめ・テスト

[使用テキスト・参考文献]

・「これならわかる！
 子どもの保健演習ノート」
 榊原洋一 監修・小林美由紀 編集
 ミネルヴァ書房
 ・授業書（各章ごとに配布）

[単位認定の方法及び基準]

・総合評価で60点
 (試験やレポートの評価基準など)
 ・出席状況、授業への取り組み、小テスト、
 定期試験の総合評価

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
保育音楽②		ピアノ・手遊び指導	坂口真紀子	
授業回数	(単位数)	配当学年	必修・選択	
15		CW31 CF31		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育者に必要な音楽表現能力の基礎となるピアノ手遊びを学び、実践力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>ピアノ個人レッスン、手遊び発表実践。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な歌唱伴奏ができる ・手遊び。音楽遊びができる 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数	内容			
1	オリエンテーション、テキストの使用について (ピアノ) 朝のうた、おべんとう (手遊び) はじまるよ			
2	(ピアノ) 演習レッスン: 朝のうた、おべんとう / (手遊び) 実践: むすんでひらいて			
3	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: おかえりのうた、ぶんぶんぶん / (手遊び) 実践: あたまかたひざボン			
4	(ピアノ) 演習レッスン: おかえりのうた、ぶんぶんぶん / (手遊び) 実践: おおきなくりのきのしたで			
5	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: ふしぎなポケット / (手遊び) 実践: いっぱんばしにほんばし			
6	(ピアノ) 演習レッスン: ふしぎなポケット / (手遊び) 実践: とんとんとんとんひげじいさん			
7	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: とけいのうた / (手遊び) 実践: グーチョキパーでなにつくろう			
8	(ピアノ) 演習レッスン: とけいのうた / (手遊び) 実践: おてらのおしょうさん			
9	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: ちいさな世界 / (手遊び) 実践: パスにのって			
10	(ピアノ) 演習レッスン: ちいさな世界 / (手遊び) 実践: おべんとうばこのうた			
11	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: おもちゃのチャチャチャ / (手遊び) 実践: ピクニック			
12	(ピアノ) 演習レッスン: おもちゃのチャチャチャ / (手遊び) 実践: カレーライス			
13	テスト対策復習			
14	実技テスト			
15	実技テスト			
使用テキスト・参考文献		単位認定の方法及び基準		
<p>「いつもの手遊びをもっと楽しく」</p> <p>「保育のピアノ伴奏」</p>		授業態度、出席率、課題プリント、実技テストの総合評価		

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
健康運動実践対策			來海 郁	教員経験
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	単位			

[授業の目的・ねらい]

健康運動実践指導者として実務にあたる際に必要な知識を、テキストの章立てを軸に復習し、指導に活かせる理論を身につける。

[授業全体の内容の概要]

テキストの流れに沿いながらこれまでの授業内容も踏まえて、知識の確認・補足をしていく。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]

全体の理解度 6割程度

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	1章について
2	2章 "
3	3章 "
4	4章 "
5	5章 "
6	6章 "
7	確認
8	7章について
9	8章 "
10	"
11	"
12	"
13	9章について
14	"
15	確認

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

健康運動実践指導者養成用テキスト

授業の出席、およびテストの点数による理解度の評価
(6割)

(試験やレポートの評価基準など)

テキストの内容を理解し、正答を導くことができた。

21-03-16:10:48

授業概要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
レクリエーション理論 活動援助法		レクリエーション	新戸 由美	
授業の回数 (単位数) ※	単位	担当学年	必修・選択	実務経験
5 1.5		介護福祉科 K12 5コマ こども総合科		
<p>[授業の目的・ねらい] 少子高齢化社会においてレクリエーション・インストラクターはレクリエーションの「市民サービス業」を推進する人材として期待されている。 21世紀レク運動の役割、レク支援、展開方法を中心におきながらインストラクターを育てる</p> <p>[授業全体の内容の概要] レクとは何か。 レク支援、理念 レクインストラクター育成 楽しさを通して心の元気づくり</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p>				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	内 容			
1	レクリエーションを体験してもらう。			
2	レクとは何か。レクの意味とレク運動の歴史を学ぶ。			
3	レク概論①レク支援の目標 ②レクインストラクターの役割			
4	楽しさとおの心の元気づくりの理論、現代社会の課題や問題			
5	楽しさとおの心の元気づくりの理論 元気づくりに活かす2つの視点			
6	" ③子どもや高齢者の心の元気づくり			
7	" ④心の元気と地域のきずなづくり			
8	レク支援の理論：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論/対象者との信頼関係			
9	" : 良好な集団づくりの理論			
10	" : 自主的・主体的に楽しむ力を育む			
11	" : 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ			
12	" : 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング			
13	" : 自主的・主体的に楽しむ力を育むレク活動の展開法			
14	" : 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法			
15	テスト			
(使用テキスト・参考文献)		(単位認定の方法及び基準)		
楽しさとおの心の元気づくり				
		(試験やレポートの評価基準など)		

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
ゼミナール (後期)		演習	生地裕	教員経験 35年
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	2年・3年	必修	

[授業の目的・ねらい]

卒業論文の作成を行い、論文のテーマである社会問題について理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

卒業論文の作成を行い、さらに卒業論文の発表の準備を行う。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]

卒業論文のテーマに選んだ社会問題について理解を深め、福祉や教育の現場で生かせるレベルまで高める。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	ゼミナール (後期) のオリエンテーション：卒業論文作成および発表の準備
2	論文作成 (1) 論文の作成を行う。
3	論文作成 (2) 論文の作成を行う。
4	論文作成 (3) 論文の作成を行う。
5	論文作成 (4) 論文の作成を行う。
6	論文作成 (5) 論文の作成を行う。
7	論文作成 (6) 論文の作成を行う。
8	論文作成 (7) 引用文献の作成を行う。
9	論文作成 (8) 目次の作成を行う。
10	論文作成 (9) 論文の抄録を作成する。
11	論文作成 (10) 論文の抄録を作成する。
12	論文発表の準備 (1) 発表原稿の作成を行う。
13	論文発表の準備 (2) パワーポイントの作成を行う。
14	論文発表の準備 (3) パワーポイントの作成を行う。
15	論文発表の準備 (4) 論文発表の練習を行う。

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

各テーマにしたがって、授業で具体的に示す。

卒業論文および発表の評価を中心に、取り組む姿勢・出席状況等を加味して、総合的に成績評価を行う。

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

評価基準等については、授業で具体的に説明を行う。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
更生保護制度			石田 咲子	教員経験
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
10	単位	3年 CW31a4		

[授業の目的・ねらい]

わが国の更生保護制度の概要を理解するとともに、社会福祉士の資格を取得するために必要な知識を得ること及び実務に必要な知見を身につけることを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

導入として、刑事司法と福祉が関わる場面を実際の事例を用いて説明をし、なぜ更生保護制度を学ぶのかについて考える。次に、更生保護制度の内容についてスライドや配布資料を用いて説明をする。最後に確認テストを行い、習熟度を確認する。

なお、毎回授業のはじめに小テスト及びその解説を実施する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

更生保護の理念及び制度の概要を理解し、社会福祉士の資格取得のみならず、その後の実務にも役立つ知見を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	導入：刑事司法と福祉
2	刑事司法
3	少年司法
4	仮釈放・仮退院
5	保護観察
6	生活環境の調整・更生緊急保護
7	更生保護の担い手
8	医療観察制度①
9	医療観察制度②・犯罪被害者支援
10	まとめ：刑事司法における福祉の役割と今後の展望
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

[参考文献]

・社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 更生保護制度 [第4版]』(中央法規、2017年)
 ・岩崎晋也編『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック15 刑事司法と福祉』(ミネルヴァ書房、2020年)

出欠状況及び授業態度、小テスト、確認テスト

(試験やレポートの評価基準など)

授業で説明したこと及び小テストの内容を理解しているかどうか。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当		
子どもの健康と安全	時間割内読替授業	小松田 よし子		教員経験 27年
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	CW 3 1 / CF 3 1	必修	7 年

[授業の目的・ねらい]

子どもの保健で学んだ基礎知識をもとに、保育者として実際に対応できるようになる。
 子どもの病気や応急手当等、必要な援助の方法や事故防止、安全管理について、実践できるようになる。

[授業全体の内容の概要]

各疾患や感染症についての予防と集団感染の防止を理解し、保育における養護技術や健康安全管理等について演習を中心に行い、模擬評価方法を講義と視聴覚教材によってを行う。

[授業修了時の到達課題 (到達目標)]

保育における保健的対応を知り、援助方法を習得する。子どもの体調不良時の健康観察の仕方、バイタルサインの測定方法を知り、適切な対応を理解する。
 救急時の対応、応急処置、心肺蘇生法に関する知識・技術を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

・講義、視聴覚教材、演習授業のレポート、單元ごとの小テスト、

コマ数	内 容
1	子どもの保健と安全を学ぶ目的 第1章 子どもの発育を知ろう A. 胎児の発育 B. 胎児の発育に影響する因子
2	第2章 子どもの発達を知ろう A. 運動機能の発達とその評価について B. 精神機能の発達の測定とその評価について 第3章: 「子どもの健康」で
3	第4章 日常における養護の方法 A. 子どもの抱き方 B. おんぶの仕方 C. : 乳児保育で D. 口腔の衛生 E. 衣服の着せ方 F. 排泄のさせ方 G. 沐浴・入浴のさせ方
4	H. 寝かせ方 I. 外出時に注意すること J. おもちゃと固定遊具 K. 自転車の乗せ方 L. 子どもへの声掛けの仕方
5	第5章 子どもの保育環境づくり A. 施設環境 B. 日常の健康管理 C. 健康診査
6	第6章 よくかかる病気について知ろう A. 病気についての基礎知識
7	B. 体調不良時の症状別対応 C. よくかかる感染症 1 起因病原体別感染症
8	2 臓器別感染症 D. 感染症の予防 E. 薬の投与の仕方 F. 病院受診時の対応
9	第7章 よく起こる事故について知ろう A. 子どもの死因統計 B. 子どもの事故の特徴 C. 年齢別のけがや事故の種類と発声場所 D. 事故防止 E. 事故後の精神的支援 F. 安全への配慮 G. 安全管理 H. 安全教育
10	第8章 いざというときの応急処置について知ろう A. 子どもの応急処置における留意点
11	B. 急病時の応急処置 C. 傷害時の応急処置
12	第9章 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について知ろう
13	第10章 子どもの生活習慣について考えてみよう
14	第11章 世界の子どもの保健をながめてみよう
15	まとめ・テスト

[使用テキスト・参考文献]

・「これならわかる！
 子どもの保健演習ノート」
 榊原洋一 監修・小林美由紀 編集
 ミネルヴァ書房
 ・授業書 (各章ごとに配布)

[単位認定の方法及び基準]

・総合評価で60点
 (試験やレポートの評価基準など)
 ・出席状況、授業への取り組み、小テスト、
 定期試験の総合評価

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
保育音楽②		ピアノ・手遊び指導	坂口真紀子	
授業回数	(単位数)	配当学年	必修・選択	
15		CW31 CF31		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育者に必要な音楽表現能力の基礎となるピアノ手遊びを学び、実践力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>ピアノ個人レッスン、手遊び発表実践。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な歌唱伴奏ができる ・手遊び、音楽遊びができる 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数	内容			
1	オリエンテーション、テキストの使用について (ピアノ) 朝のうた、おべんとう (手遊び) はじまるよ			
2	(ピアノ) 演習レッスン: 朝のうた、おべんとう / (手遊び) 実践: むすんでひらいて			
3	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: おかえりのうた、ぶんぶんぶん / (手遊び) 実践: あたまかたひざボン			
4	(ピアノ) 演習レッスン: おかえりのうた、ぶんぶんぶん / (手遊び) 実践: おおきなくりのきのしたで			
5	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: ふしぎなポケット / (手遊び) 実践: いっぱんばしにほんばし			
6	(ピアノ) 演習レッスン: ふしぎなポケット / (手遊び) 実践: とんとんとんとんひげじいさん			
7	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: とけいのうた / (手遊び) 実践: グーチョキパーでなにつくろう			
8	(ピアノ) 演習レッスン: とけいのうた / (手遊び) 実践: おてらのおしょうさん			
9	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: ちいさな世界 / (手遊び) 実践: パスにのって			
10	(ピアノ) 演習レッスン: ちいさな世界 / (手遊び) 実践: おべんとうぼこのうた			
11	プリント / (ピアノ) 演習レッスン: おもちゃのチャチャチャ / (手遊び) 実践: ピクニック			
12	(ピアノ) 演習レッスン: おもちゃのチャチャチャ / (手遊び) 実践: カレーライスうた			
13	テスト対策復習			
14	実技テスト			
15	実技テスト			
使用テキスト・参考文献		単位認定の方法及び基準		
<p>「いつもの手遊びをもっと楽しく」</p> <p>「保育のピアノ伴奏」</p>		授業態度、出席率、課題プリント、実技テストの総合評価		

授業概要

〈科目名〉		授業の種類		授業担当者	
レクリエーション理論 活動援助法		レクリエーション		新戸 由美	
授業の回数 (単位数) ※		配当学年		必修・選択	
5 15		単位 介護福祉科 R12 5コマ こども総合科 CW31 (CF)			
<p>[授業の目的・ねらい] 少子高齢化社会においてレクリエーション・インストラクターはレクリエーションの「市民サービス業」を推進する人材として期待されている。 21世紀レク運動の役割、レク支援、展開方法を中心におきながらインストラクターを育てる</p> <p>[授業全体の内容の概要] レクとは何か。 レク支援、理念 レクインストラクター育成 楽しさを通して心の元気づくり</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p>					
[授業の回数と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数		内 容			
1		レクリエーションを体験してもらう。			
2		レクとは何か。レクの意味とレク運動の歴史を学ぶ。			
3		レク概論①レク支援の目標 ②レクインストラクターの役割			
4		楽しさと心の元気づくりの理論、現代社会の課題や問題			
5		楽しさと心の元気づくりの理論 元気づくりに活かす2つの視点			
6		" ③ 子どもや高齢者の心の元気づくり			
7		" ④ 心の元気と地域のきずなづくり			
8		レク支援の理論：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論/対象者との信頼関係			
9		" : 良好な集団づくりの理論			
10		" : 自主的・主体的に楽しむ力を育む			
11		" : 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ			
12		" : 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング			
13		" : 自主的・主体的に楽しむ力を育むレク活動の展開法			
14		" : 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法			
15		テスト			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]			
楽しさをおとした 心の元気づくり					
		(試験やレポートの評価基準など)			

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
幼児と健康			柳田 信也	教員経験 有
授業の回数	(単位数)※	配当学年	必修・選択	実務経験
	単位			

【授業の目的・ねらい】

本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針において「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」として掲げられている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に含まれる、「健康な心と体」の項目を理解することを目的とする。そして、幼児教育者として、自立した健康的な生活を送ることができる子どもたちを育成するための資質を養う。

【授業全体の内容の概要】

幼児期の発育発達の特徴を概説し、心と体の健康について実践的に講義を行う。また、健康の三要素「運動・栄養・休養」と幼児の生活について解説する。さらに、子どもたちの健康管理のために必要な実践的技術については演習や実技を通して理解を深める。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

本講義では以下に示す3つを到達目標とする。

- ①領域「健康」の概要を理解することができる。
- ②幼児期の発育発達の特徴を説明することができる。
- ③心と体の健康管理における運動や栄養など、適切な生活習慣について実践的に模範的技能・態度を示すことができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数	内 容
1	ガイダンス「健康の定義」（講義）
2	幼児期の発育と発達（講義）
3	幼児期の身体活動（講義）
4	幼児の健康とあそび（講義）
5	幼児における運動あそび①～用具を使わないあそび～（演習）
6	幼児における運動あそび②～ボールを使ったあそび～（演習）
7	環境とあそび～子どものあそびを取り巻く環境の調査（演習）
8	幼児とこころの健康（講義）
9	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について～アクティブチャイルドの育成～（演習）
10	まとめ（到達度評価試験）
11	
12	
13	
14	
15	

【使用テキスト・参考文献】

【単位認定の方法及び基準】

特になし。授業資料については毎回配布する。

全ての授業に出席し、到達度評価試験において合格点を獲得すること。

(試験やレポートの評価基準など)

到達度評価試験 50%
実践的技術・態度 50%

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
劇遊び (指導法)				古川彩香	
				教員経験	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
10	単位				

[授業の目的・ねらい]

子どもの豊かな表現性を導き出すための知識や技術をダンス（身体表現活動）を通じて深める。また、学生同士であらゆる自己表現を互いに認め合う態度を養う事を目的とする。

[授業全体の内容の概要]

ダンスや身体表現を主軸とし、自由な発想やイメージによる自己表現を体験し、仲間と共に舞台作品を作成、発表をする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・学生自身も表現者として「感じて・考えて・行動する」力を養う。
- ・表現活動を通して他者との関わり方を学び、共同で創造的活動を行う理論と実践力を身につける。
- ・子どもの表現を理解し、共感できる感性を高める。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション 子どもの環境と表現
2	身体を知る (Body/ Shape) 音楽と共に楽しむからだ遊び
3	リズムを知る (Dynamics) 音を見る
4	動きを知る (Body/Action) 幼児のうちに身に着けたい動き
5	イメージと動き (Effort/Dynamics) イメージを形にして動く
6	創作活動① テーマと動き
7	創作活動② 動きと空間
8	創作活動③ コミュニケーションと動き
9	創作活動④ 小道具や衣装を考察する
10	創作活動⑤ 実技発表とまとめ
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

なし (適宜必要に応じて配布)

授業態度・提出書類（授業時間に配布）・実技発表（創作発表）の3観点で評価を行う

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
ゼミナール (前期)	演習	生地裕	教員経験	
			35年	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	2年・3年	必修	

[授業の目的・ねらい]

現代社会の諸問題の中から卒業論文のテーマを選び、そのテーマについて理解を深め、卒業論文作成の準備を行う。

[授業全体の内容の概要]

卒業論文のテーマを選択し、そのテーマについて、資料の収集・整理を行う。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]

卒業論文のテーマの問題点をあげ、理解を深める。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	Jエンターション：卒業論文のテーマの決定および資料の収集・整理
2	テーマの決定 (1) 現代社会の諸問題を学ぶ。
3	テーマの決定 (2) 現代社会の諸問題を学ぶ。
4	テーマの決定 (3) 現代社会の諸問題を学ぶ。
5	テーマの決定 (4) 現代社会の諸問題の中から、興味のある分野を絞り込む。
6	テーマの決定 (5) 興味のある分野の中からさらに絞り込み、具体的な卒業論文のテーマを決定する。
7	資料の収集 (1) 資料収集の方法を学ぶ。
8	資料の収集 (2) 選択したテーマに関する資料収集を行う。
9	資料の収集 (3) 選択したテーマに関する資料収集を行う。
10	資料の収集 (4) 選択したテーマに関する資料収集を行う。
11	資料の分析・整理 (1) 資料の分析・整理の方法を学ぶ。
12	資料の分析・整理 (2) 資料を分析・整理する。
13	資料の分析・整理 (3) 資料を分析・整理する。
14	資料の分析・整理 (4) 資料を分析・整理する。
15	夏期休暇における論文作成について指示を行う。

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

<p>各テーマにしたがって、授業で具体的に示す。</p>	<p>況を中心に、論文作成に取り組む姿勢・出席状況等を加味して、総合的に</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p style="text-align: center;">評価基準等については、授業で具体的に説明を行う。</p>
------------------------------	--

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
ゼミナール（後期）	演習	生地裕	教員経験	
			35年	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	2年・3年	必修	

[授業の目的・ねらい]

卒業論文の作成を行い、論文のテーマである社会問題について理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

卒業論文の作成を行い、さらに卒業論文の発表の準備を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

卒業論文のテーマに選んだ社会問題について理解を深め、福祉や教育の現場で生かせるレベルまで高める。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	ゼミナール（後期）のオリエンテーション：卒業論文作成および発表の準備
2	論文作成（1） 論文の作成を行う。
3	論文作成（2） 論文の作成を行う。
4	論文作成（3） 論文の作成を行う。
5	論文作成（4） 論文の作成を行う。
6	論文作成（5） 論文の作成を行う。
7	論文作成（6） 論文の作成を行う。
8	論文作成（7） 引用文献の作成を行う。
9	論文作成（8） 目次の作成を行う。
10	論文作成（9） 論文の抄録を作成する。
11	論文作成（10） 論文の抄録を作成する。
12	論文発表の準備（1） 発表原稿の作成を行う。
13	論文発表の準備（2） パワーポイントの作成を行う。
14	論文発表の準備（3） パワーポイントの作成を行う。
15	論文発表の準備（4） 論文発表の練習を行う。

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

各テーマにしたがって、授業で具体的に示す。	卒業論文および発表の評価を中心に、取り組む姿勢・出席状況等を加味して、総合的に成績評価を行う。
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で60点以上を合格とする。 評価基準等については、授業で具体的に説明を行う。

授業概要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
教育相談			雨宮 和輝	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	教員経験
15	単位	2	必修	

[授業の目的・ねらい]
 幼稚園・保育所において、保育者が幼児もしくは保護者に対してどのような形で教育相談を行っていくのかを理解する。

[授業全体の内容の概要]
 本授業では様々な資料や事例を学ぶことで教育相談の実践的なスキルを身に付けることができるようにする。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]
 幼児、もしくは保護者に対する教育相談の方法を理解し、実践できるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	教育相談の基礎(1)
3	教育相談の基礎(2)
4	子どもの問題行動1の対応(1)
5	子どもの問題行動1の対応(2)
6	子どもの発達段階に関して(1)
7	子どもの発達段階に関して(2)
8	子どもの情緒面に対するケア(1)
9	子どもの情緒面に対するケア(2)
10	保護者と親への対応(1)
11	保護者と親への対応(2)
12	現代の保育と課題
13	教育相談の実践(1)
14	教育相談の実践(2)
15	テスト

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

参加態度(30%) テスト(70%)

(試験やレポートの評価基準など)

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
情報処理Ⅰ			伊藤 手二	教員経験 あり
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	単位	2年(社会福祉保育)		なし

[授業の目的・ねらい]

Word・Excelでの作業、処理が"基本的にテキストなし"で行えるようにする。

[授業全体の内容の概要]

Word・Excelを用いた演習

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

Word・Excelが"テキストなし"基本処理できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	ガイダンス word基礎①
2	word基礎②
3	word基礎③
4	word基礎④
5	word基礎⑤ 小テスト
6	Excel基礎①
7	Excel基礎②
8	Excel基礎③
9	Excel基礎④
10	期末テスト
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

実教出版株式会社企画開発部
30時間マスター - word & Excel
2019
(windows10対応)

授業の出席 50%
小テスト 20% 期末テスト 30%
(試験やレポートの評価基準など)
PCを用いた資料作成が出来ているか

授 業 概 要

後期

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
保育・教職実践演習 後期		演習	板崎 淑子	教員経験 なし
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
5	単位	3年 (C/W/M) (S/T/P)	必修	あり

[授業の目的・ねらい]

教職の意義や保育者の役割などを再確認し、保育者の具体的職務内容や保育園・幼稚園の実態、学級経営、幼児理解、社会性、対人関係能力に関する内容について理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

演習を中心として、自らの学びを実習等の体験と結びつけながら振り返り、保育者として必要な知識や技能、専門職としての倫理観等を再確認する。

主に、保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任や倫理、社会性、対人関係の能力、子どもや家庭の理解、教職員間の連携、関係機関をテーマとする。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

保育者として必要な保育に関する専門知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが形成、習得されたか、自らの学びを振り返り確認する。

実習を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する具体的な問題解決について、知識を活用する力を身に付ける。子ども理解、クラス運営並びに保育内容の指導力を身に付ける。そして自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質や能力の定着を図る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	実習の振り返り
2	指導計画を作成しよう
3	模擬保育①
4	模擬保育②
5	まとめ（自己の課題を文章化しよう）
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

適宜プリントを配布する	①指導案や記録などの指定された課題の提出 ②模擬保育の実践活動 ③講義中の取り組みの姿勢を総合的に評価する。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

1学期

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
現代スポーツ論			伊藤 まこと	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	教員経験
10回	単位	スポーツ・保育 3年		あり
				実務経験
				あり

[授業の目的・ねらい]
 運動と健康の密接な関わりを理解する。

[授業全体の内容の概要]
 健康増進・健康づくりに対する運動の重要性と健康生活を送るために安全で効果的な運動の実践に関する基礎的な理論を学ぶ。

[授業終了時の達成課題 (到達目標)]
 運動の有効性を理解する。運動の実践及び指導のための基礎知識を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	スポーツ概観(学校体育)/スポーツの概念と歴史
2	青少年の運動不足と健康
3	運動の身体への生理学的効果
4	運動の心理学的影響
5	イボの低下と運動
6	スポーツとライフステージ
7	学校スポーツの安全管理
8	予防と応急措置
9	スポーツとドーピング
10	期末テスト
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
各回適宜参考図書を示す。 (主となるものはありません)	各回のコマ数カード 50% 期末テスト 50% (試験やレポートの評価基準など) コマ数カード...授業内容への関心 期末テスト...授業内容の理解

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
保育・教職実践演習 4年次		演習	板崎 淑子	
			教員経験 なし	
授業の回数	(単位数)※	配当学年		必修・選択
5	単位	3年 CW31 CP31		必修
			実務経験 あり	

[授業の目的・ねらい]

教職の意義や保育者の役割などを再確認し、保育者の具体的職務内容や保育園・幼稚園の実態、学級経営、幼児理解、社会性、対人関係能力に関する内容について理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

演習を中心として、自らの学びを実習等の体験と結びつけながら振り返り、保育者として必要な知識や技能、専門職としての倫理観等を再確認する。

主に、保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任や倫理、社会性、対人関係の能力、子どもや家庭の理解、教職員間の連携、関係機関をテーマとする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

保育者として必要な保育に関する専門知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが形成、習得されたか、自らの学びを振り返り確認する。

実習を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する具体的な問題解決について、知識を活用する力を身に付ける。子ども理解、クラス運営並びに保育内容の指導力を身に付ける。そして自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質や能力の定着を図る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	実習の振り返り
2	指導計画を作成しよう
3	模擬保育①
4	模擬保育②
5	まとめ（自己の課題を文章化しよう）
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

適宜プリントを配布する	①指導案や記録などの指定された課題の提出 ②模擬保育の実践活動 ③講義中の取り組みの姿勢を総合的に評価する。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
子どもの食と栄養（後期）			志村隆子	
			教員経験	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
10	単位			

[授業の目的・ねらい]

子どもの食と栄養が、豊かな人間性と健康な身体を作る基礎であることを理解し、正しい知識を習得することで、保育の実践に活かせる力を身に付ける。自分自身の食生活を振り返り、健康増進につながる食生活をを目指す。

[授業全体の内容の概要]

幼児期の生活リズムの大切さとおやつ的重要性を講義と実習で学ぶ。思春期までの食生活の現状を知ることで、乳児期・幼児期の食生活の重要性をさらに理解する。食育推進の取り組みを学ぶ。児童福祉施設や特別な配慮が必要な子どもの食と栄養について学ぶ

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

様々な環境の子ども達を支援できるように子どもの食事と栄養について理解し、子ども達への食育又保護者支援を実践する力を身に付ける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

講義とおやつ実習1コマ(学生の実習による出席状況でおやつの実習日は変更します)

コマ数	内 容
1	幼児期の食生活
2	幼児期の食生活 間食の意義
3	幼児期の食生活 [実習] おやつ
4	学童期・思春期の心身の発達と食生活
5	障害発達と食生活
6	食育の基本と内容
7	家庭や児童福祉施設における食事と内容
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（疾病及び体調不良の子どもへの対応）
9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（障害のある子どもへの対応）
10	後期のまとめ
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

子育て子育てを支援する 子どもの食と栄養 堤ちはる	テスト、課題、授業中の態度、欠席・遅刻 (試験やレポートの評価基準など)	
	テスト(点数) 課題(提出の有無) 授業中の態度(おしゃべり・居眠り)欠席・遅刻の回数	

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
相談援助の理論と方法2 (後期)		講義・グループワーク	高橋毅	教員経験 5
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	単位	2	必修	27

[授業の目的・ねらい]
 実習・演習と連動する科目が相談援助の理論と方法である。相談援助とはソーシャルワークと同義のものであり、ソーシャルワークを行う上で、必要とされる内容を理論的に学ぶことを目的とする

[授業全体の内容の概要]
 ソーシャルワークをミクロ、メゾ、マクロの視点で捉え、ニーズの発見から支援計画の作成～終結、アフターケアまでの一連の展開過程を学ぶ。また、アウトリーチ、アセスメント技術、契約技術、介入技術、モニタリング、再アセスメント、効果測定・評価の技術、面接技術、記録技術、交渉技術を理論的に学ぶ

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]
 相談援助 (ソーシャルワーク) の展開過程を理解する
 た、ソーシャルワークに必要な様々な技術を理解する
 相談援助の専門職としての意識、豊かな人格形成の基盤が培われる

ま
相

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容	
1	相談援助の展開過程	その①展開過程の流れ
2		その②ケースの発見からインテーク、ニーズの確定
3		その③アセスメントからプランニング、支援の実施まで
4		その④モニタリングと再アセスメント
5		その⑤終結と効果測定、アフターケア
6		その⑥予防的対応とサービス開発
7	相談援助のための技術	その①アウトリーチの技術
8		その②契約の技術
9		その③アセスメントの技術
10		その④介入の技術
11		その⑤モニタリング、再アセスメント、効果測定・評価の技術
12		その⑥面接の技術
13		その⑦記録の技術
14		その⑧交渉の技術
15	定期テスト/まとめ	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

相談援助の理論と方法Ⅰ 中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 7巻	定期テスト・出席状況を総合的に評価	
	(試験やレポートの評価基準など)	
	定期テスト：60点以上合格	

授 業 概 要				
(科目名)		授業の種類	授業担当者	
児童福祉ゼミナール【後期】		講義・演習	中本 宣弘	教員歴
				17年
授業の回数	単位数	配当学年	必修・選択	実務経験
前期;15回	30 単位	こども総合科2年	必修	28年
[授業の目的・ねらい]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査を通じて、物事の因果関係を把握し、それに基づく効果的な解決策を見出せる 2. 起承転結に基づく論文構成を理解し、設定課題の分析力、洞察力を身につける。 3. 課題解決への道筋をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションをすることにより、自己表現力を高めていく。 4. これらの過程を通して、保育士に求められる豊かな知識と人格の基盤が培う。 				
[授業全体の内容の概要]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 設定テーマに関する実地調査。 2. 設定テーマに関する実地調査の分析。 3. 起承転結に基づく論理的な論文作成 4. 論文の論理的構成(パワーポイントの作成)とプレゼンテーション。 				
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 物事の因果関係を明確にし、原因に基づく効果的な解決策を見出せるようになっている。 2. 起承転結に基づく論文構成が身についている。 3. 課題解決への道筋をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションができるようになっている。 4. 以上の過程を通して、保育士に求められる豊かな知識と人格の基盤が培われている。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数	内 容			
1	第3章;「設定テーマに関わる実地調査」集計			
2	第3章;「設定テーマに関わる実地調査」集計②			
3	第3章;「設定テーマに関わる実地調査」分析①			
4	第3章;「設定テーマに関わる実地調査」分析②			
5	第3章;「設定テーマに関わる実地調査」分析のまとめ①			
6	第3章;「設定テーマに関わる実地調査」分析のまとめ②			
7	序章(研究動機・目的・研究主旨・研究方法・仮説)			
8	第1章(設定テーマに関する定義・現状)清書			
9	第2章(設定テーマに関わる特性と対応)清書			
10	第3章(実践場面から見る設定テーマに関わる特性と対応)清書①			
11	第3章(実践場面から見る設定テーマに関わる特性と対応)清書②			
12	第3章(実践場面から見る設定テーマに関わる特性と対応)清書③			
13	第4章(まとめ)清書①			
14	パワーポイント作成			
15	論文のプレゼンテーション			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会的養護」(ミネルヴァ書房) 2. 「社会福祉小六法」(ミネルヴァ書房) 3. 「社会福祉用語辞典」(ミネルヴァ書房) 4. 各自の参考文献 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文評価 ;70% 3. 授業態度 ;30% (100点満点) 		
		(試験やレポートの標価基準など)		
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文評価;70点 2. 授業態度;2点×15回=30点 A;80点以上 B;70点以上 C;60点以上 D;60点未満(不合格)		

集中

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
日本国憲法		講義	生地裕	教員経験 35年
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
10	2 単位	2年	必修	

[授業の目的・ねらい]

日本国の基本法である日本国憲法について、基本原理、統治機構、基本的人権を中心に、具体的事例をあげて説明する

[授業全体の内容の概要]

最初に憲法の基本原理である国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を学び、統治機構について、国会・内閣・裁判所

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

日本国憲法の基礎的知識を身につけさせる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	憲法の基礎的事項（基本原理・統治機構・基本的人権）の説明
2	レポート作成（1） 日本国憲法の基本原理
3	レポート作成（2） 日本国憲法の基本原理
4	レポート作成（3） 日本国憲法の基本原理
5	レポート作成（4） 基本的人権の自由権（表現の自由とプライバシーの問題）
6	レポート作成（5） 基本的人権の自由権（表現の自由とプライバシーの問題）
7	レポート作成（6） 基本的人権の自由権（表現の自由とプライバシーの問題）
8	終末試験対策（1） 国民主権・法の下での平等・新しい人権・政教分離
9	終末試験対策（2） 表現の自由・生存権・平和主義
10	終末試験対策（3） 国会・権力分立・憲法改正
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

近大テキスト『日本国憲法』	末試験結果を中心に、授業態度・出席状況を加味して、総合的に評価を行う。
	(試験やレポートの評価基準など)
	る。各問50点の100点満点で採点を行う。終末試験の採点基準については、